

はじめに

近年、地球温暖化や都市開発などの影響で災害が多発化しています。災害が起きると、慣れない環境や避難所での生活で疲弊したり、生活不活発病や心理的ストレスなどにより弱ってしまう方が多くいます。自分の勤めている病院、施設の機能がストップしたり、自分自身が被災者になって避難生活を送りながらも支援に向かう可能性もあります。災害は、地域リハビリで向き合っている課題が「急激」かつ「大量」しかし「一時的」に増えている状態と言えます。したがって、普段我々が関わっていることの延長線にあるとも言えます。有事に限った特別なものではなく、自然災害はいつ起きるか分からない為、理学療法士としてどのように関われるのか、少しでも会員の興味や関心に繋げるための通信です。

近年の主な災害年表 日本国内の大規模災害の一覧です（防災情報ナビより引用）。

2020～2025 現在	2011年～2019年
2024/09/27：奥能登豪雨 2024/01/01：能登半島地震（M7.6） 2022/03/16：福島県沖地震（M7.4） 2021/08/11～19：令和3年8月の大雨 2021/07/03：熱海市伊豆山地区土砂災害 2021/02/13：福島県沖地震（M7.3） 2020/07/03～31：令和2年熊本豪雨	2019/10/11～12：令和元年台風19号 2018/09/06：胆振東部地震（M6.7） 2018/06/28～08：平成30年7月豪雨 2017/07/05～06：九州北部豪雨 2016/04/14：熊本地震（M7.3） 2014/07/30～26：平成26年8月豪雨 2011/03/11：東日本大震災（M9.0）



災害リハビリテーションとは

被災者、要配慮者等の生活不活発病および災害関連死等を防ぐためにリハビリテーション医学、医療の視点から関連専門職が組織的に支援を展開することで被災者、要配慮者の早期自立、生活の再建、復興を支援する活動のすべてを言います。日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）や災害時派遣福祉チーム（DWAT）によるリハビリ支援もありますが、当然被災地域でのセラピストも現地スタッフとして対応にあたる可能性も出てきます。

✂災害関連死（防災情報、復興庁のホームページより引用）
災害による直接の被害ではなく、避難途中や避難後に亡くなることで、災害との因果関係が認められるもの。「防ぎ得る死」と言われています。（具体例：エコノミークラス症候群、ストレスによる身体の異常、持病の悪化、衰弱など）

災害名	阪神淡路大震災（1995年）	東日本大震災（2011年）	熊本地震（2016年）	能登半島地震（2024年）
直接死	5,513名	15,900名	50名	228名
関連死	921名	3,808名	278名	364名

直接的な被害を上回っている。

リハビリテーション専門職としてのところがけ

来るべき時のために、まずは準備と確認！施設間や行政との連携、顔の見える関係づくりを築きましょう。北海道理学療法士会では、大規模災害発生時マニュアルを作成しています。
1－被災会員 2－被災支部 3－事務局 4－平時の準備 5－災害時の行政の動き から構成されています。安全確保、安否情報発信に加えて平時のチェックポイントもわかりやすく記載されています。被災したとき、普段利用できるツール（電話・メールなど）が繋がるとは限りません。施設内の連絡方法を確立したり、自分の状況を伝える習慣を意識したり、伝言ダイヤル・伝言掲示板などの使用法を確認しておくといいでしょう。次回からも継続して紹介します。

～編集後記～
興味を持ったなら研修会でお話を聞くことが一番です。間違った解釈や疑問に感じたことがきちんと整頓されと思います。今後も社会部、災害リハ支援部に注目してください（文責：日高地区 矢部 晃子）。

今後の参考とする為、googleフォームにてご意見・ご感想をお願いします（右QRコード）。

